

## 最近の管内経済概況

～ 低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる ～

最近の動きをみると、

個人消費は、一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動きとなっている。

公共工事は、一服している。

住宅建設は、低調ながら持ち直しの動きがみられる。

民間設備投資は、大幅に減少している。

観光は、下げ止まりの動きがみられる。

生産活動は、持ち直しの動きがみられる。

雇用動向は、厳しい状況となっている。

企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

なお、先行きについては、国内外の経済情勢に引き続き留意する必要がある。

平成22年3月11日

照会先：経済産業省北海道経済産業局  
総務企画部調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：hokkaido-chosa@meti.go.jp

U R L：http://www.hkd.meti.go.jp

# 管内経済概況判断の推移

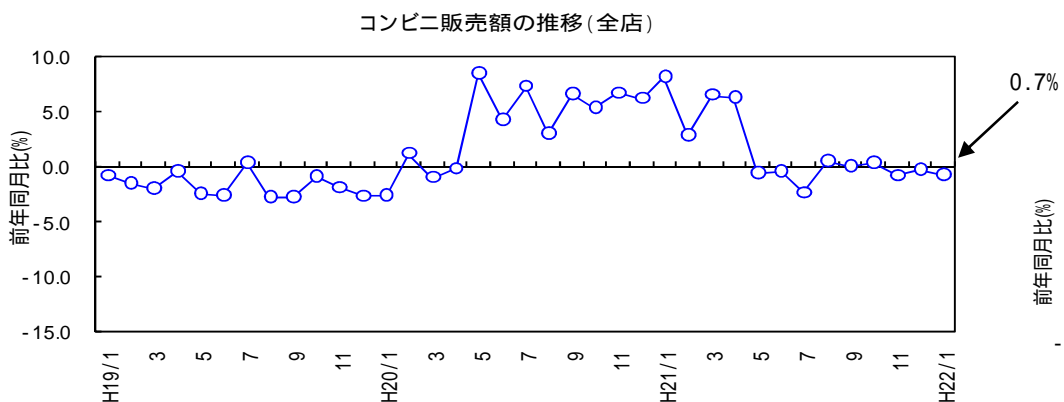
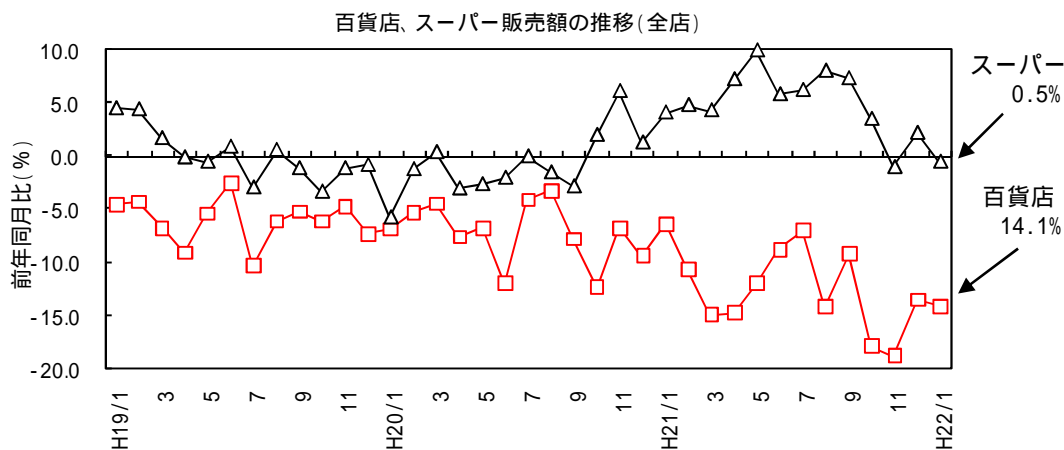
( 2 2 年 3 月 現 在 )

発 表 月	21年10月	11月	12月	22年1月	2月	3月
総 括 判 断	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
全 国	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	
個 人 消 費	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き
公 共 工 事	堅調	堅調	堅調	堅調	堅調	一服
住 宅 建 設	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	低調	低調ながら一部に持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き
民 間 設 備 投 資	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少
観 光	低調	低調	低調	低調	低調	下げ止まりの動き
生 産 活 動	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き
雇 用 動 向	さらに厳しく	厳しい状況	厳しい状況	厳しい状況	厳しい状況	厳しい状況
企 業 倒 産	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少	件数は減少、負債総額は増加	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少

全国は、内閣府「月例経済報告」の基調判断。

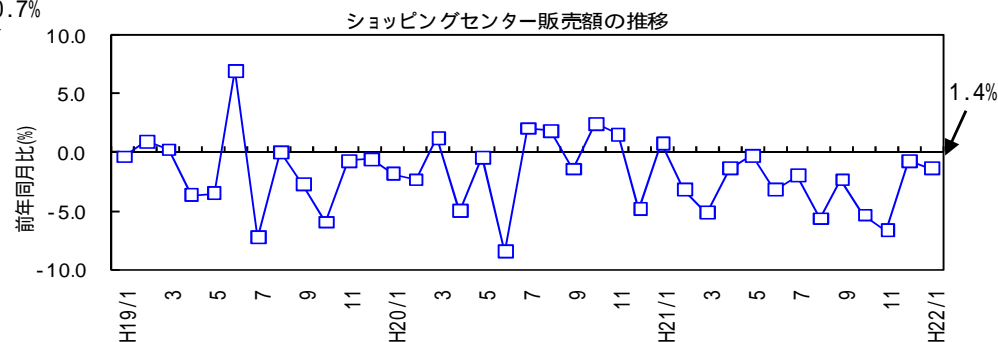
百貨店、スーパー、コンビニ販売額（1月）

- ・百貨店は、冬物衣料や雑貨に動きがあったものの、店舗数減少等から、前年同月比 14.1%となった。
- ・スーパーは、客数は堅調だったものの、商品単価の低下等から、同 0.5%となった。
- ・コンビニは、同 0.7%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・初売りは天候の影響で客足が鈍かったものの、その後、寒さが厳しくなりコートや帽子などの防寒アイテムが好調だった。（百貨店）
- ・婦人服にわずかに回復の兆しが見られるが、宝飾品などの高額商品は相変わらず動きが鈍い。（百貨店）
- ・1月は、客数は前年並みを確保できたが、まとめ買いの減少などで買上げ点数が伸びず、商品単価の下落をカバーしきれなかった。（スーパー）
- ・1月初旬は厳しかったが、後半にかけて盛り返してきた。年始は遠出をしなかった人が多かったようだ。（コンビニ）
- ・衣料品に多少回復傾向がみられるものの、高額商品の苦戦は続いている。外国人観光客の利用の多い薬局などは売上げを伸ばしている。（ショッピングセンター）
- ・2月は穏やかな天気が続き客足が伸びたことに加え、外国人観光客の増加などで前年を上回る売上げが期待できそう。（百貨店）
- ・2月も消費動向に大きな変化はみられない。低価格を前面に出した販売促進などで売上げ増加を図っていく。（スーパー）
- ・販売動向は変わっていない。2月は天気の大きな崩れもなく、客数は確保できている。（コンビニ）

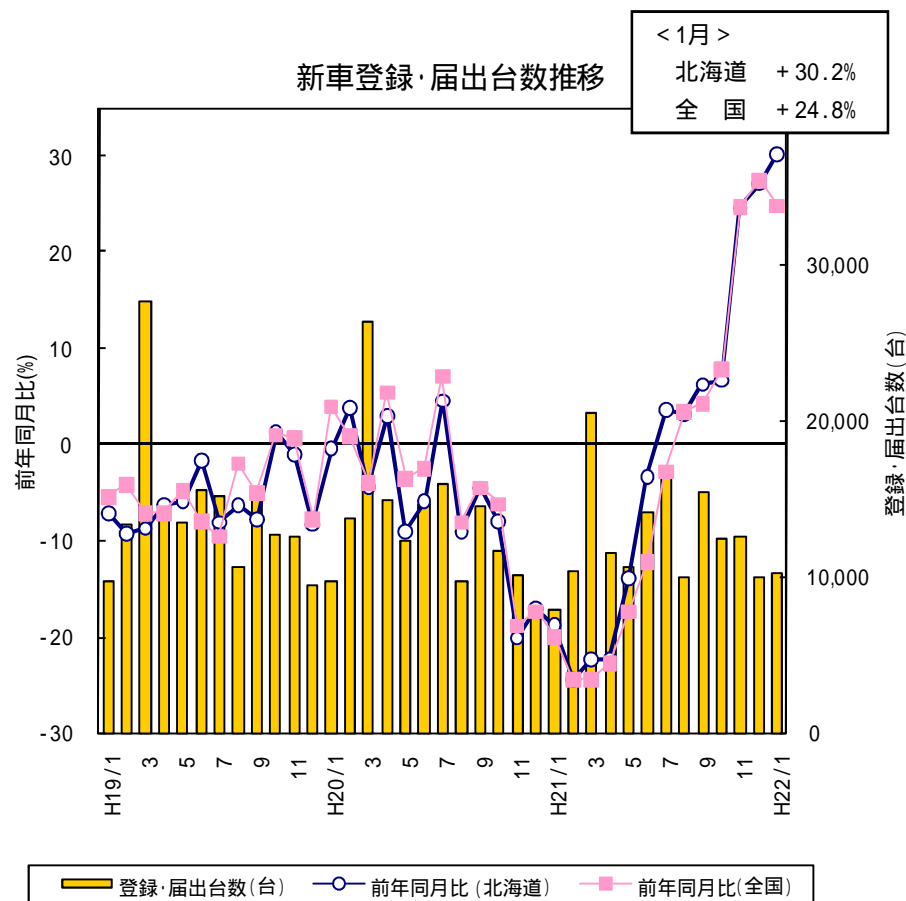


(資料:北海道経済産業局)

(資料:(社)日本ショッピングセンター協会)

新車登録・届出台数、家電販売額（1月）

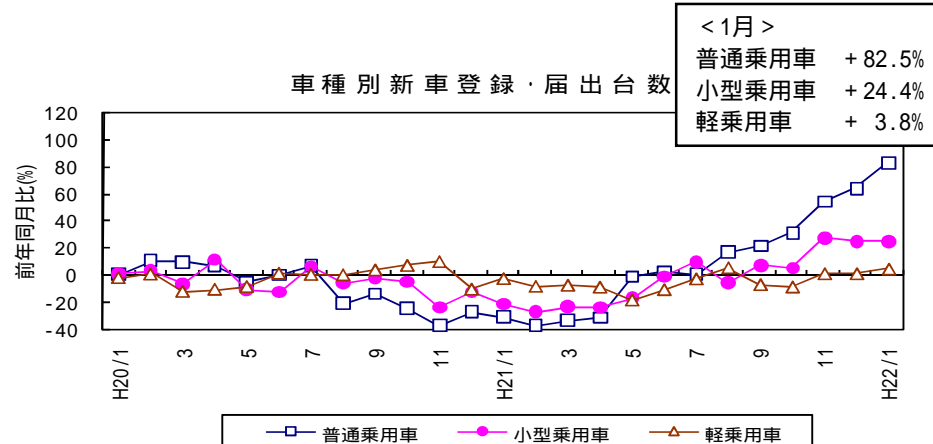
- ・エコカー減税・補助金の効果等から、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体では前年同月比 +30.2%となった。
- ・家電販売は、エコポイント制度の効果等から、薄型テレビ、冷蔵庫などが引き続き好調。



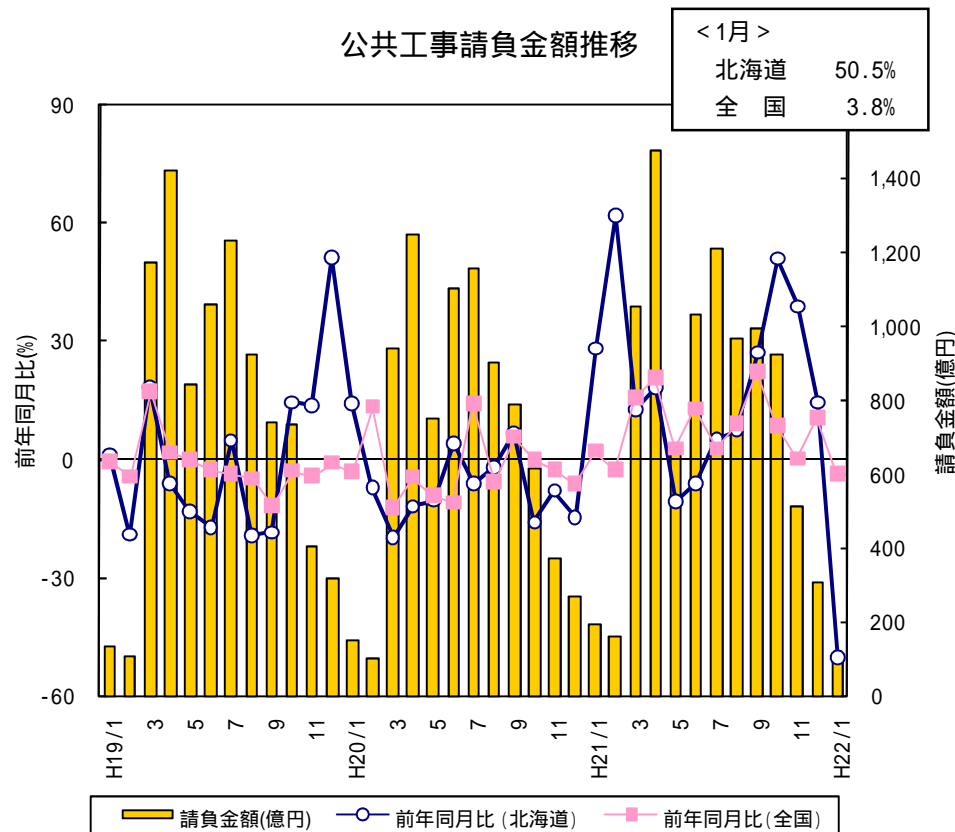
(資料：(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会)

【企業ヒアリング内容】

- ・一昨年前の水準までは届いていないが、非常に厳しかった昨年からみると回復しており、既に底は脱していると信じている。(ディーラー)
- ・4WDの高級車は札幌が全国で一番売れている。法人需要が高まる3月に動きが良くなれば売上は大きくプラスになる。(ディーラー)
- ・お客は「お買い得感」を重要視しており、必ず最初にエコカー減税の対象になる車種を尋ねてくる。価格が多少高くなっても、減税対象となる車を選ぶ傾向が強い。(ディーラー)
- ・ハイブリッド車のような勢いはないが、軽は女性客を中心にコンスタントに売れている。(ディーラー)
- ・薄型テレビの売れ行きは好調で、年が明けてからも勢いは落ちていない。LEDバックライトの採用など省エネ性能や機能が向上したモデルが発売され、価格も下げ止まりつつある。(家電販売)
- ・2月、3月は進学や就職、転勤に伴う新生活家電が動く時期だが、今年は例年に比べ出足が鈍い。(家電販売)
- ・LED電球はまだ値段が高いため、数量はそれほど出ていないが、客の関心は高い。徐々にラインナップが増えてきており、今後に期待できる商品。(家電販売)



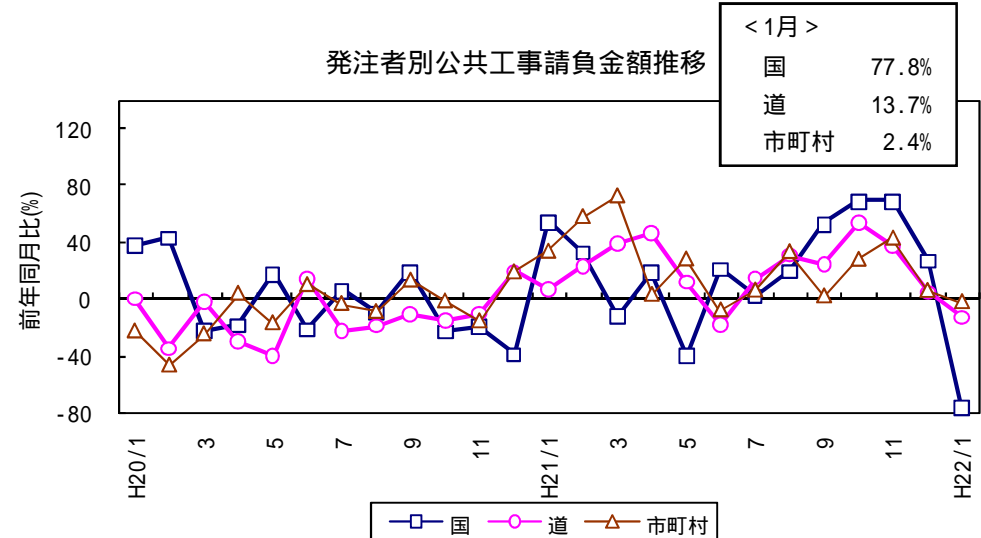
・1月の公共工事請負金額は、国、道、市町村ともに前年を下回り、全体では前年同月比 50.5%となった。



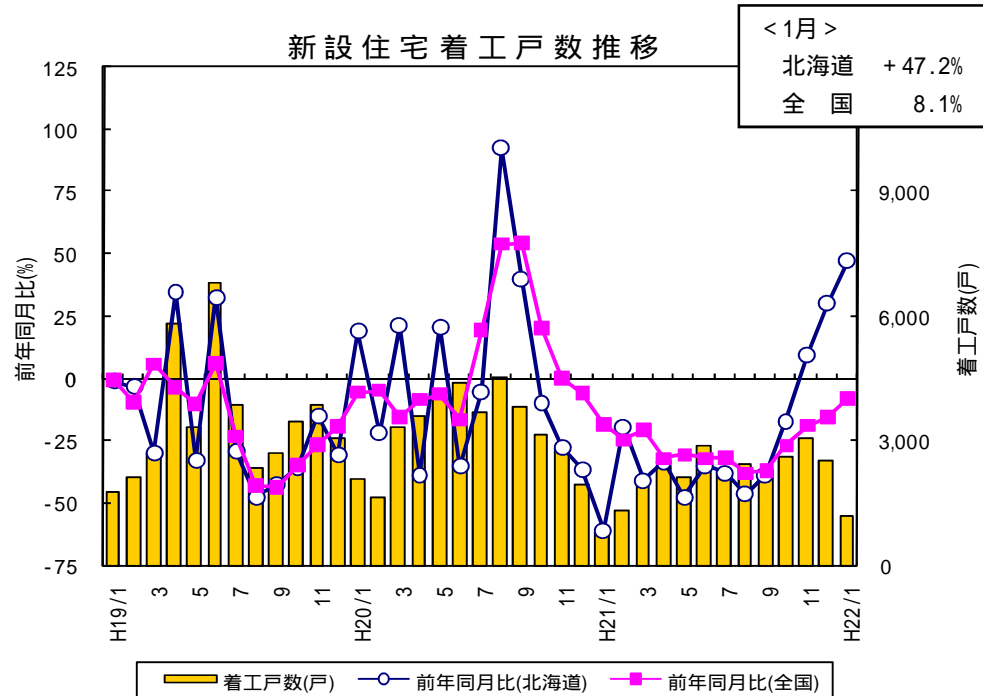
(資料:北海道建設業信用保証(株))

【企業ヒアリング内容】

- ・今年は道路工事が多く、学校の耐震工事もあったが、年明けからは少し落ち着いてきたようだ。(関係団体)
- ・2月、3月も、大型案件やゼロ国の予算などで、それなりの発注はあるだろう。ただ、国の公共工事予算が、新年度は2割近く落ちるため、3月までのうちに取りだけ取るという、熾烈な戦いになることが必至。(建設)
- ・今年度は補正予算関係の受注でどの企業も成績は良かったようだ。しかし、来年度は予算が大きく縮減される中で、どのような状況になるのか非常に不安。(建設)
- ・年末にかけて補正予算関係の発注が多かったが、今は例年並の生産量となっている。5月の連休明け以降に工事が始まるゼロ国向けに、在庫を積み増ししている状況。(金属製品)
- ・官庁は前倒し発注に力を入れており、年度内の工事量は減っていない。ただ今後はそのしわ寄せが出てくるだろう。(建設)
- ・公共工事の減少を少しでもカバーするため、新規事業にも取り組んでいるが経験のない分野に参入するのはかなり難しい。(建設)

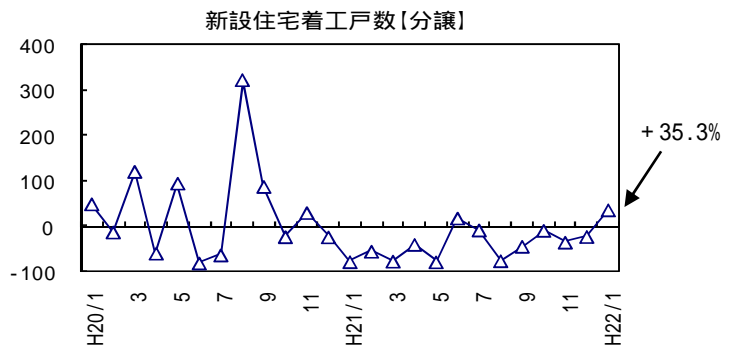
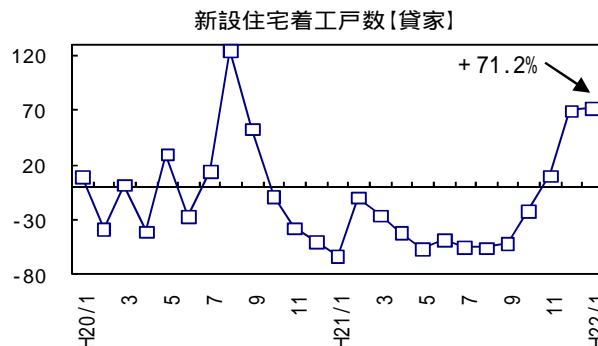
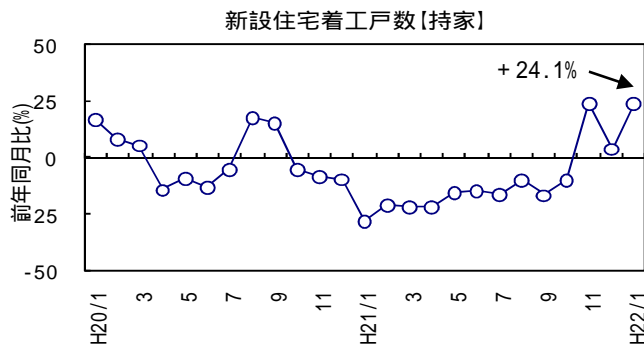


・ 1月の新設住宅の着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を上回り、全体では前年同月比 + 47.2% となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・今年各社とも着工増に相当動き出さるう。札幌市内の完成在庫は1000戸を切り、市況は昨年で底を打ったと感じている。(マンション)
- ・道内は建て替え需要が少なく、購入層は30才半ばから40代の一次取得者が中心。現在、若い世代が手が届きやすい価格帯の新商品を開発中。(住宅)
- ・新築は相変わらず良くないが、リフォームは伸びている。これまでは戸建リフォームだけだったが、新年度からマンションリフォームも本格的にスタートさせる。(住宅)
- ・今は、低金利で安く建てられることもあり、こんな景気の中でも土地を持っている人などがアパートを建てているようだ。(住宅)
- ・契約に結びつくかどうかは別として、モデルルームの来場者数は年明けから増えてきている。もう2~3年もの間動いてないため、潜在的な客はいると思う。(マンション)
- ・住宅版エコポイントはリフォームでは魅力がある。ただエコポイントで業績が1割上がると思えず、呼び水になる程度。もちろん様々なキャンペーンは打っていくつもり。(住宅)



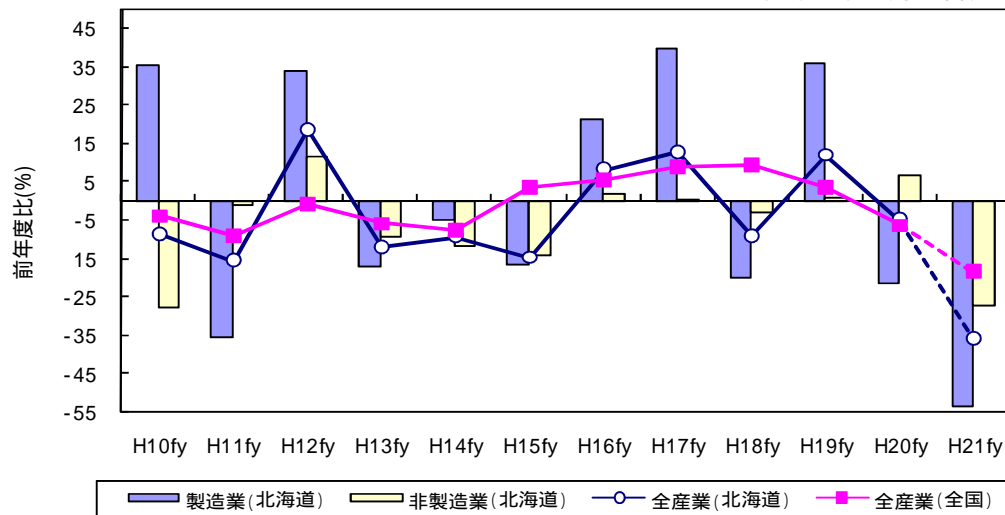
(資料:国土交通省)

民間設備投資 ~大幅に減少~

・ 21年度の設備投資計画は、製造業、非製造業ともに前年度を大きく下回っている。

日銀短観の設備投資動向(製造業、非製造業別)

平成21年12月14日発表



	<20年度>	<21年度計画>
北海道	5.1%	36.2%
製造業	21.7%	53.3%
非製造業	+ 6.9%	27.3%
全国	6.4%	18.8%

【企業ヒアリング内容】

- ・ 来年度は公共事業の縮減など厳しい見通しのため、維持補修以外の投資は行わない。逆に一部工場の閉鎖を検討している。(窯業・土石)
- ・ 医療関係や高齢者用賃貸住宅など民間建築は数本は受注できたが、オフィスビルや商業店舗はほとんどない。(建設)
- ・ 今年度は特に大きな設備投資は行わなかった。ただ、まだ時期は未定だが、全社的にCO2削減に取り組んでいる関係で、数年のうちにはエネルギー関係で大型投資を実施することを検討中。(電気機械)
- ・ 今期は店舗の新築などの本格的な投資は控え、あまりお金をかけずに床や壁の補修など、ショールームの改装を行った。(ディーラー)
- ・ 1、2年の間に札幌市内に新店舗を建設する計画。ギフト需要に頼らない経営体質にするため、消費者の普段の買い物としての利用を確保していく戦略。(食料品)
- ・ 設備資金に関する相談や融資はほとんどない。リーマンショックを契機に減少したわけではなく、それ以前からの低調が続いている。(関係機関)
- ・ 極力投資は控える方向だが、耐用年数を迎える設備など必要な部分には対応せざるを得ない。(ホテル)

(資料: 日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査 (設備投資)

平成21年12月24日発表

前年(同期)比 (%)	20年度	21年度 (計画)	
		上期	下期
全産業	14.4	19.5	12.0
製造業	2.7	34.1	29.6
非製造業	24.0	11.8	2.4

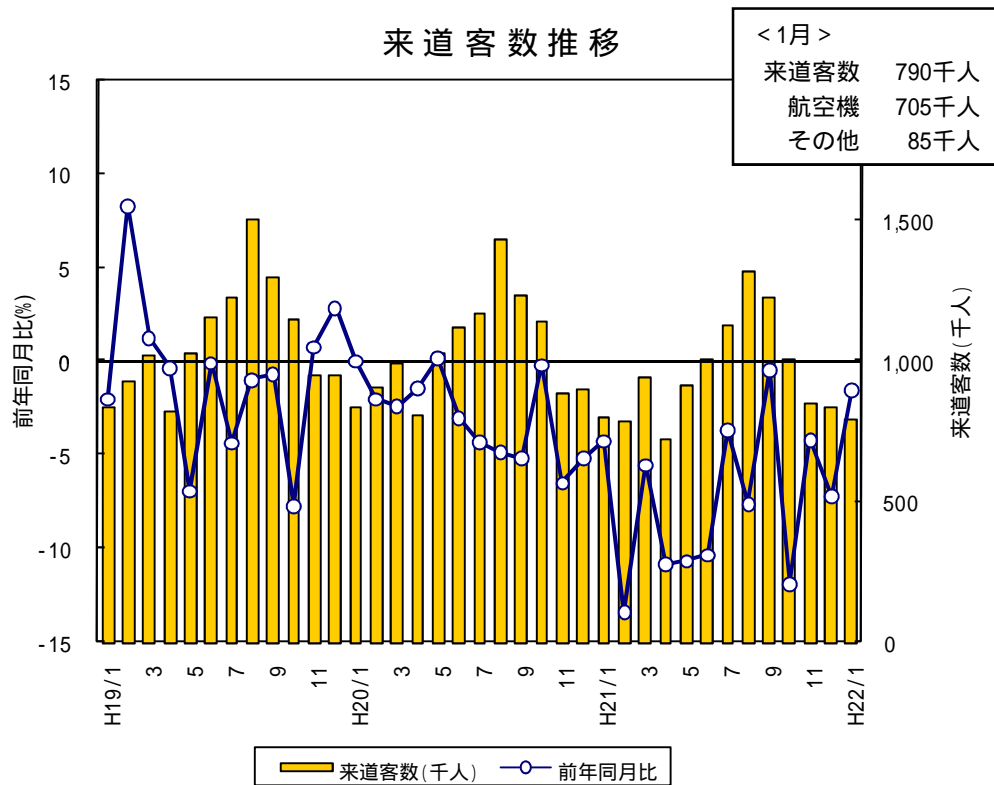
(資料: 北海道財務局)

注) 土地購入額を含む。ソフトウェア投資額を除く。

# 観光 ~ 下げ止まりの動き ~

# 観光

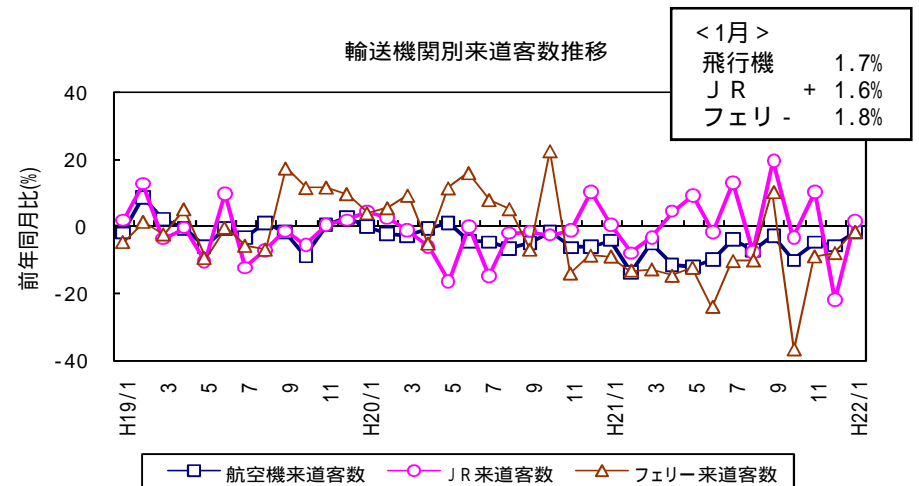
・ 1月の来道客数は、前年同月比 1.5%となった。



(資料: (社)北海道観光振興機構)

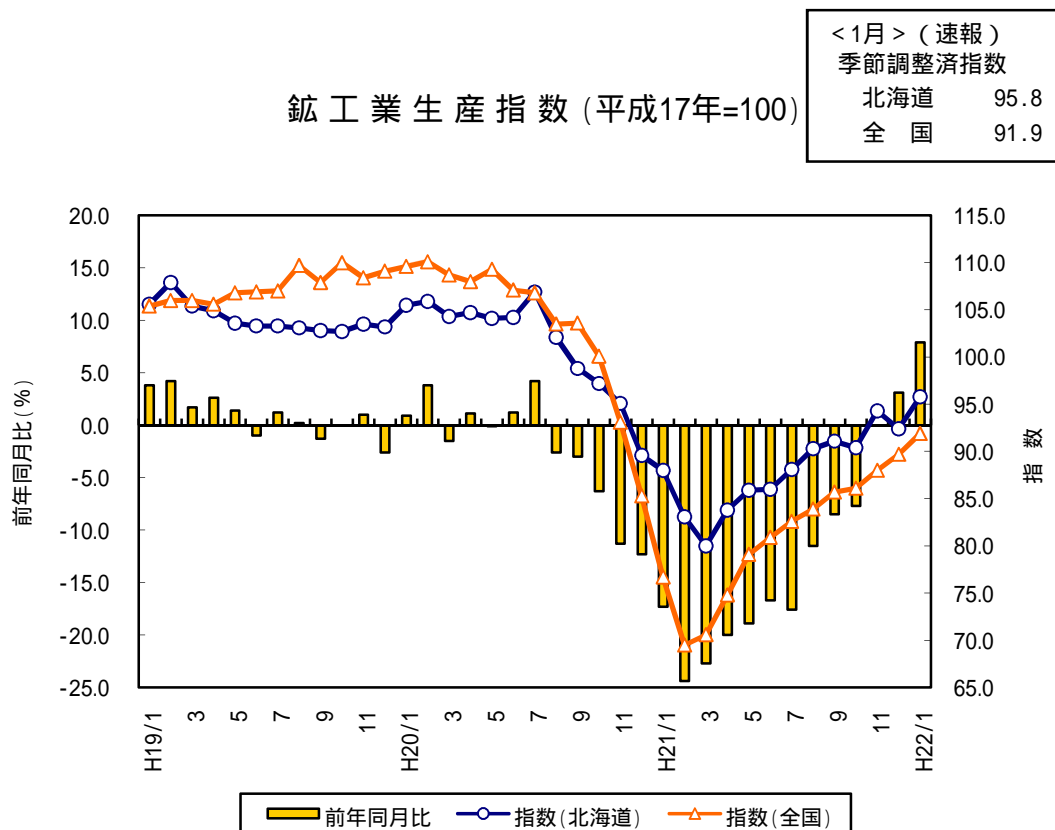
### 【企業ヒアリング内容】

- ・ 1月、2月と台湾のチャーター便が増えており、台湾客が増加。宿泊施設が良くなってきている。本州客も少しは良くなっている感じ。(関係団体)
- ・ 少し持ち直している気もするが、企業の出張は依然として低迷している。安い航空会社へシフトする傾向もより鮮明となっている。(旅行代理店)
- ・ 雪まつり期間中の国内客が増加したほか、アジアの旧正月もあり、2月の稼働率は90%を超えた。3月以降の予約状況は今のところ前年並み程度。今後は良くなっていくと思いたい。(ホテル)
- ・ 1月は道外・道内とも前年割れとなった。昨年で底を打ったと思っていたのだが、まだ底があったようだ。特に富良野や夕張、ルスツなどのスキー需要がどこも厳しい。(旅行代理店)
- ・ 中国客はどんどん増えており、インバウンド全体の1割以上を占めている。今春から中国の団体客を本格的に受け入れる予定。(ホテル)
- ・ エージェント経由の予約が落ちてきている。WEBで予約してETC割引を利用するなど、旅行代理店を利用しない人が増えているようだ。(ホテル)
- ・ 海外客の入り込みはアジアの観光客を中心に回復してきている。台湾や香港からの運航便も増えてきている。(旅行代理店)



## 生産活動 ～ 持ち直しの動き ～

- ・ 1月の鉱工業生産は、前月比+3.7%と2か月振りの上昇、前年同月比+7.9%と2か月連続の上昇となった。
- ・ 金属製品工業、石油・石炭製品工業、一般機械工業等が上昇、鉄鋼業、輸送機械工業等が低下している。



## 【企業ヒアリング内容】

- ・ 昨年の補正予算事業による受注で、納期のピークである年度末に向けて生産を増加しており、年度内は昨年を上回る水準で推移する見通し。  
(金属製品)
- ・ 春モデル向けの高付加価値部品の受注があり数量的には明るい状況だが、取引条件が厳しいため収益を支えるまでにはならない。(電気機械)
- ・ 道内需要は冷え込んでおり、需要見合いの生産。マンションに少し動きが出てきたため、3月以降に期待。(鉄鋼)
- ・ 台湾・中国のPCや携帯電話向けの需要が引き続き好調を維持しており、輸出は右肩上がり。ただ、国内需要はやや弱い動き。(電気機械)
- ・ 中国等のアジア向けは堅調に伸びているが、これまで中心であった北米での販売環境がやや厳しくなっている。欧州も若干陰りが出始めてきた。  
(輸送機械)
- ・ 印刷用紙は国内の減少分を輸出に振り向けるようにしているが、海外市況は価格水準が低く、収益は一段と厳しい状況。(紙・パルプ)
- ・ 官公需向けのウエイトが高い地方を中心に、出荷量は前年を大きく上回っている。ただ、民需向けが多い札幌は依然低調。(窯業・土石)
- ・ ダンボールは、例年1月、生産が落ちる時期だが、今年は青果、水産、飲料向けなど全般的に特に良くなかった。(紙・パルプ)
- ・ 自動車向けは、引き続き受注が好調で、ほぼフル稼働の状況。輸出はアジア向けを中心に今後も高水準の出荷を維持できそう。(鉄鋼)
- ・ 売上は前年比で2ケタ減が続いている。今後もこの状況が続く見通し。  
(食料品)

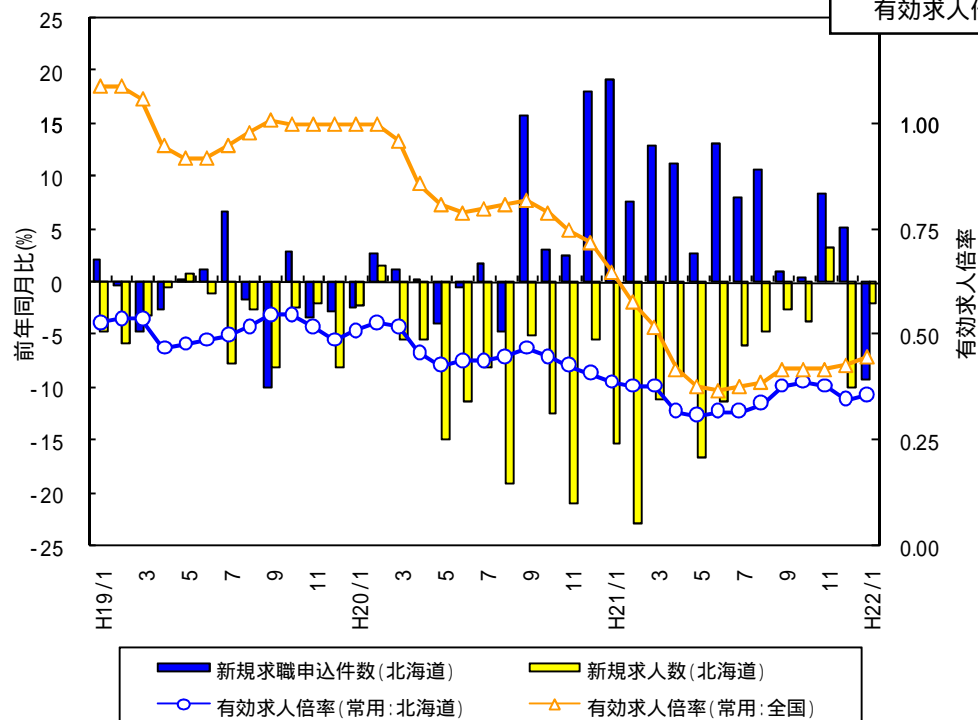
(資料: 経済産業省、北海道経済産業局)

雇用動向 ~ 厳しい状況 ~

- ・ 1月の有効求人倍率は0.36倍と、前年同月差で0.03ポイント低下した。
- ・ 新規求人数は前年同月比 2.0%と前年を下回った。新規求職件数は同 9.2%と前年を下回った。
- ・ 事業主都合離職者は同 15.8%と前年を下回った。

<1月>	
有効求人倍率(常用)	0.36倍
新規求人数	2.0%
新規求職申込件数	9.2%
全国	
有効求人倍率(常用)	0.45倍

新規求職・新規求人・有効求人倍率(常用)



**【企業ヒアリング内容】**

- ・ 在籍する社員の雇用確保が優先のため、正社員の新規採用は抑制。必要に応じて派遣社員を採用。(鉄鋼)
- ・ 会社説明会の参加学生は昨年より5割増。ただ、優秀な人材はどこの会社も欲しいので、採用するのは容易ではない。(小売)
- ・ 来年度は公共工事が落ち込む見通しのため、派遣社員や臨時職員の更新は行わない予定。(コンクリート製品)
- ・ 1月からの減産に伴い生産部門を中心に一時帰休を実施。10数名の派遣社員を期間満了で雇用を終了。(電子部品)
- ・ 今期は土木部門は忙しいが、民需の落ち込みで建設部門の人員には過剰感がある。(建設)
- ・ 求人倍率はやや上昇したが、正社員の募集は少なく、臨時・嘱託など非正規の募集がほとんど。(関係団体)
- ・ 次年度に向け新商品の開発を計画しており、その分野の専門知識を持った30代前半で製品企画・開発ができる人材を必要としている。(食料品)
- ・ 今春のみならず、来春も正社員の新規採用予定はない。(百貨店)
- ・ 公共工事の減少を見越して、希望退職等で人員削減を行っている建設会社は多く、工事量が増えた今年度もその流れは変わっていない。(関係機関)

(資料:厚生労働省、北海道労働局)

# 企業倒産 ~ 件数、負債総額とも減少 ~

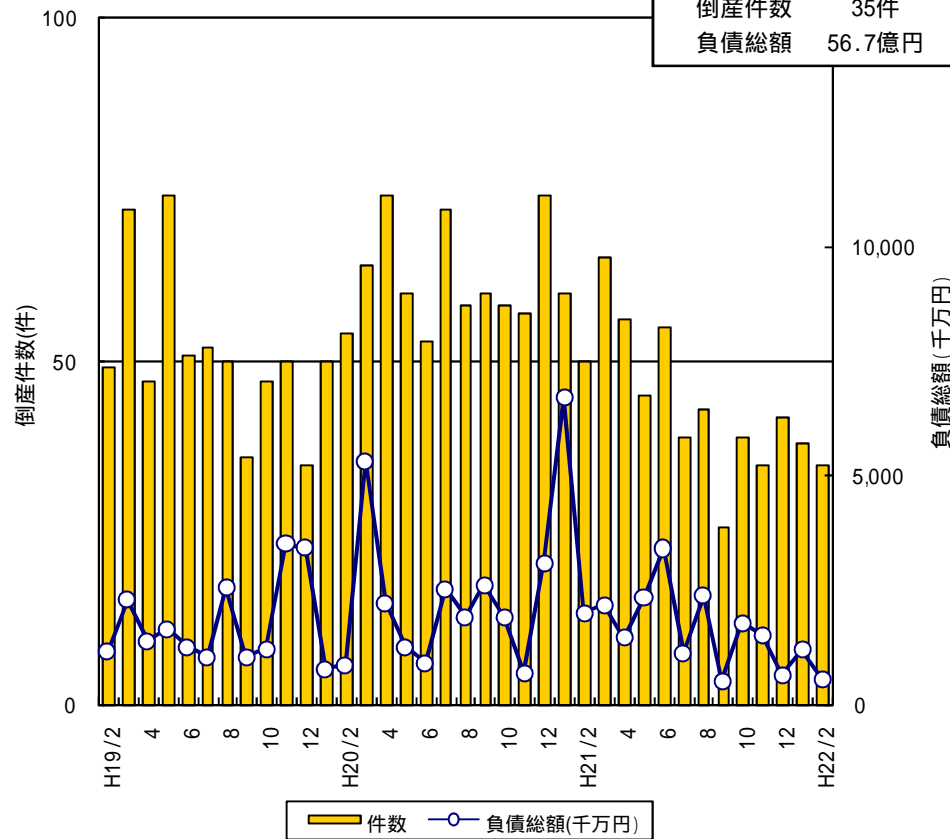
# 企業倒産

- ・ 2月の倒産件数は、35件で前年同月比 30.0%と前年を下回った。
- ・ 負債総額は、56.7億円で同 71.9%と前年を下回った。

### 【企業ヒアリング内容】

- ・ 緊急保証制度やセーフティネット貸付などの下支えで倒産は少なくなっているが、資金繰り表もつくれないうような経営状態の企業は多く、潜在的な倒産予備軍は減っていない。(関係団体)
- ・ 補正予算の関係で仕事がある今はまだよいが、新年度の公共工事予算が大幅に減少するため、先の見通しは暗い。今後さらに競争が厳しくなり、道内の建設業界で生き残れるのは10社中4社と言われている程。(建設)
- ・ 売上は低迷しているがコスト削減等で利益面では好転しており、資金調達は全く問題ない。必要以上の借入は控えており、融資の引き合いは断る場合が多い。(食料品)
- ・ 現状は落ち着いているが、新年度は、体力のない建設業者や個人商店、宿泊関係は、公共工事の減少やデフレの影響を受けてさらに厳しくなるであろう。小さなところが突然バタッと倒れることがあるかもしれない。(関係機関)
- ・ 倒産は全くゼロではないが例年に比べて少ない。既にある程度淘汰されたこともあるし、先の見通しが悪いところは倒産する前に廃業してしまう。今は最後まで頑張るところは少ない。(関係機関)
- ・ 販売単価の下落や原材料の値上がりで、運転資金が逼迫している。新規借入れはもとより、借り換えも難しくなっている。(電気機械)

### 企業倒産推移



(資料:(株)東京商工リサ - チ北海道支社)

### 業種別倒産件数推移

